

# パキスタンの IT 系プラットフォームワーカーに関する事例研究：就労働機とスキル獲得に着目して

服部 拓磨

(受付：2025 年 9 月 6 日 受理：2025 年 9 月 6 日)

## 1 はじめに

情報通信技術の発展や、海外への業務アウトソーシングの拡大を背景に、プログラミングや Web デザインなどの IT 関連業務を、オンライン・プラットフォームを通じて受発注する職業形態が広がっている。これは IT 分野のプラットフォーム労働（PF 労働）と呼ばれ、従来の雇用関係と異なり、国内外の顧客とプラットフォーム労働者（PF ワーカー）をオンラインでマッチングさせる。オンライン・プラットフォームの数は、2010 年の 193 から 2023 年には 1,070 に増加しており<sup>[1]</sup>、13 年間でおよそ 5.5 倍の成長を示している。この成長は、世界中の人々に新たな就労機会を提供し、PF ワーカー数の拡大に寄与している。

この労働市場で注目すべきは、インド、バングラデシュ、パキスタン出身者が世界の PF ワーカーの 52.5% を占める点である<sup>[2]</sup>。その中でもパキスタンは、PF ワーカーの供給数で世界第 3 位に位置しており、国内には 237 万人の PF ワーカーが存在すると言われている<sup>[3]</sup>。パキスタン政府も 2018 年から国内の PF ワーカー向けに、コワーキングオフィスの建設、報酬を受け取るための外貨口座の開設、デジタルスキル研修の提供といった支援を行っている。

本報告では、PF ワーカーの供給数において世界上位に位置するパキスタンにて実施した、就労働機とスキル習得の調査結果について発表する。調査で得られた知見の蓄積は、パキスタンにおける PF 労働市場の実態を理解する上で重要な情報となる。

## 2 研究概要

### 2.1 研究目的

研究目的は、パキスタンにおける IT 系プラットフォーム労働者の就労働機とスキル習得の実践を明らかにすることである。

### 2.2 研究対象

本研究の対象は、Upwork、Fiverr などのオンライン・プラットフォームを利用して、IT 系業務を請け負っているパキスタン在住の PF ワーカーたちである。本報告で発表するのは、計 3 名（男性 2 名、女性 1 名）の調査協力者である。年齢は 19 歳から 33 歳に分布しており、職業形態は、PF 労働に専従するフルタイム型のほか、大学生や会社経営と並行して PF 労働に従事する併用型の働き方を行う者である。

### 2.3 研究方法

2025 年 6 月にパキスタンの首都イスラマバードにて半構造化インタビューによる調査を実施した。本調査では、調査協力者の選定に機縁法を用い、現地在住のパキスタン人 3 名に協力を依頼し、それぞれから調査協力者となり得る人物を紹介してもらった。インタビューは対面で英語にて実施し、各インタビュー時間は 30 分～120 分であった。調査協力者の同意を取った上で、内容はすべて録音し、文字起こしを行った。分析では、各事例の PF 労働の就労働機やスキル習得の方法に関する語りを抽出し、カテゴリー化を通じて、PF 労働における就労や学習スタイルの多様性を明らかにした。インタビューにあたっては、調査の目的・趣旨を事前に説明し、録音の同意を得たうえで実施している。なお、本研究は広島大学大学院人間社会科学研究科における研究倫理審査の承認を得て実施している。

### 3 分析結果

パキスタンにおいて IT 系プラットフォーム労働に従事する PF ワーカー 3 名の事例を取り上げ、彼らの就労働機と、仕事に必要なスキル習得の実態を分析した。その結果、就労働機およびスキル習得の方法には、個人によって異なる多様性が確認された。A 氏は、経済的に恵まれない環境で育った背景から高収入が見込まれる PF 労働に魅力を感じ、従事するようになった。YouTube を学習教材として活用して自身のスキル形成に努めていた。YouTube での効率的な学習のためオンライン掲示板を活用しながら他 PF ワーカーからのアドバイスを参考にしつつ YouTube の学習コンテンツを選んでいった。学習資源へのアクセスが限定されている中でも自律的な学習の姿が確認された。B 氏はテクノロジーへの興味・関心をきっかけとして、PF 労働を始めた。学習方法は大規模公開オンライン講座（MOOCs）の Coursera や Udemy のほか、PF ワーカーが自ら開講している有料の個別オンライン講座といった有料教材を活用し、自身の仕事で必要なスキルを磨いていた。教育内容が体系化している有料のオンライン教材を活用しながらジョブスキルを習得している点が特徴であった。C 氏は家庭と仕事の両立を重視し、ワークライフバランスの実現のため PF 労働を選択した。大学卒業後に IT 企業でのインターンシップや職務経験を経て、PF 労働を開始した。PF 労働で求められるスキルは IT 企業での勤務経験を通して、職場の上司や同僚から教わりながら習得していった。

### 4 考察

3 つの事例からは、PF 労働市場への参入が、それぞれのライフコースに応じて多様であることが確認された。A 氏の「貧困からの脱却型」、B 氏の「興味探究型」、C 氏の「ワークライフバランス重視型」といったそれぞれ異なる動機から PF 労働に従事していることは、この働き方が多様な個人のニーズに柔軟に応えられることを示唆している。また、こうした柔軟性の高さは、多くの労働者にとって魅力的であり、今後は参入者の増加とともに PF 労働市場の更なる広がりが期待される。

また、スキル開発に関しても、YouTube といった無料教材を用いた自己学習、体系的な有料教材の活用、インターンシップや職務経験による職場内でのスキル磨きといった多様なスキル習得アプローチが確認された。PF ワーカーごとにスキル習得の方法が異なっていたが、これ

はそれぞれの家庭環境や経済状況、時間的制約などの個別の要因が影響している可能性が考えられる。こうした背景を踏まえると、PF ワーカーにとって必要なスキル形成の支援策は、個別の事情に配慮した柔軟な対応が求められるのではないだろうか。

### 5 まとめと課題

本研究では、パキスタンにおける PF ワーカーの就労働機とスキル開発に関するインタビュー調査の結果を分析し、その内容を報告した。調査の結果、就労働機としては経済的要因、テクノロジーへの関心、ワークライフバランスの重視といった要因が確認され、スキル習得の手段に関しては、無料の動画教材、有料オンライン講座、現場での実務経験と多岐にわたっていた。こうした結果から、PF 労働が多様な背景を持つ人々にとって柔軟なキャリア形成の場として機能していることや個人の置かれた環境の中でのスキル習得の実践の様子が確認された。

一方で、本報告は 3 名のみの事例に基づいているため、世代、教育水準、都市・地方出身、ジェンダーといった多様な背景を持つ PF ワーカーの事例は限定的であった。今後の研究では、より多様な属性を持つ調査協力者からデータを収集し、PF 労働における就労働機とスキル形成の実態について、より包括的な理解につながる研究を行っていく。

### 6 謝辞

本研究は、JST 次世代研究者挑戦的研究プログラム JPMJSP2132 の支援を受けたものである。調査に協力してくれた調査協力者の皆様、ならびに本研究にご協力いただいた全ての関係者に、深く感謝の意を表する。

### 参考文献

- [1] International Labour Organization (ILO). Report V(1) - Realizing Decent Work in the Platform Economy - International Labour Conference, 113th Session. Geneva, ILO, 2025.
- [2] Online Labour Observatory. Online labour supply. <http://onlinelabourobservatory.org/oli-supply/>. (参照 2025-08-01).
- [3] Pakistan Freelancers Association (PAFLA). Freelancing Landscape of Pakistan – Research Overview. 2024.